

ちぐさ



戸板女子短期大学同窓会千草会

Vol.62

校訓

知 好 樂

子曰く

之を知る者は

之を好む者に如かず

之を好む者は

之を楽しむ者に如かず

論語（雍也第六）

校訓 知・好・樂

のごとはすべて対象を「知る」ことから始まる。「知ること」によって、「好き」になれる。対象を知って好きになり、はじめて人は「楽しみ」ながらその本質をつかむことができる。

『戸板学園百周年記念誌』より

CHIGUSA

Vol.
62

ちぐさ

戸板女子短期大学同窓会千草会

目 次

表紙絵

被服科30回

高橋 昌代

表紙 (2) 知好楽

1 目次

会長

小林 操子

2 ご挨拶 千草会への想い

前会長

鈴木 静子

3 感謝

4 本学のブランド化に向かって
「自己肯定感の育成」と Toita's7 Promisesについて

学長

小林 千春

5 総会風景

被服科15回

田村 篤子

6 教養科目「職業とライフデザイン」の思い出

元総合教養科教授

久保 桂子

7 戸板までそして岡山から

元食物栄養科教授

小築 康弘

人物紹介

8 三回目の成人式を前に

被服科30回

高橋 昌代

9 戸板卒業三十四年目の春に向けて…思うこと

生活科35回

木口 圭子

10 人生まるごと愛してる

英文科41回

高橋 ゆき

随筆

11 三田界隈 今昔物語VOL.8

『大名屋敷と庭園』

元理事長・学長

小野 一成

会務報告

12 行事報告

14 会計報告

広がる輪

15 お便りコーナー

18 お知らせコーナー

19 支部報告（北部九州支部）・クラス会

20 戸板栄養士会だより・支部紹介

学園だより

21 インターンシップ・オフキャンパス

23 戸板祭・奨学生

24 悼む・永眠者

表紙 (3) 入試・広報部からのお知らせ

表紙



庭のユキヤナギと
パープルの花で器活け

裏表紙



プロテアの大きな
ピンクの花で花束を

ドライフラワーのアレンジメント

蓼科という所に住んでおりますので、散歩道には蔓や松ぼっくりなどの可愛い実などがあります。お花を作っている農家さんもありますので、材料には恵まれています。この自然な雰囲気に合うような、ナチュラルなドライフラワーでアレンジしています。

高橋 昌代（被30回）



千草会会長
小林 操子

ご挨拶

千草会への想い

千草会会員の皆様には、お変わりなくご健勝にお過ごしのことと拝察申しあげます。千草会では平成二十八年度末、二年に一度の役員の改選がありました。長年会長を務めてくださった鈴木靜子先生が、任期をもちましてご退任されることを表明されました。先生の細やかなご指導の下、会の運営は滞りなく進められておりましたこと、深く感謝いたします。先生には、これからも顧問としてサポートしていただけたることになりましたので、大変心強く思つております。

後任として引き継ぎました私は実の所、三十三年間務めた常任幹事のお役から退く強い気持ちでおりました。しかし、様々な状況からこの大役をお受けすることが決まり、会長という重責に不安を抱きながら数か月を過ごしました。今は、私なりに心して取り組む覚悟であります。また、副会長として生活科十八回本田好子氏、英文科二十三回山口順子氏のお二人を

はじめ、新しく四名の方が常任幹事として参加してくださいました新体制のなかで、時代に即した運営にも挑戦して行きたいと思つております。どうぞ宜しくお願ひ申しあげます。

今年度は大きな行事として、六月十八日（日）日比谷公園内にある「松本楼」で第三十五回総会を開きました。三年ぶりの総会は、学長小林千春先生や元非常勤講師岩本千鶴子先生はじめ、多くの会員の方々にご出席いただき、賑やかな会となりました。会場内では、交流を深めあう姿があちらこちらで見られ、同窓とは直ぐに心が通じ合うものだということを、改めて感じました。年齢や学科の垣根はなく直ぐにうち解け、ただ同じ学び舎で勉学に励んだころを懐かしみ、旧友との再会を喜び合う姿に、母校に対する愛情の深さを感じ取ることができました。また、北海道支部、栃木県支部、宮崎県支部、福島県支部（休会中）から代表の方々に出席していただき、

支部の現状もお聞きすることができることも有意義なものとなりました。千草会は会員相互の親睦と絆を繋ぐ大切な役目であると心に刻みました。

今年度は自身、会の運営は従来通りの仕事をこなしていくことで、良しとしてきました。しかし、若い会員に対する対応が遅れ、魅力ある活動が欠けていたようにも思われます。幅広い年齢層をもつ同窓会は、総会や支部総会に出席できない会員にも、その魅力を伝えていく手段を検討する必要性を感じております。会報誌『ちばくさ』やホームページの充実の他に、何ができるのか今一度見直し、信頼される千草会を築いていくのが大きな課題と考えております。

戸板女子短期大学は、現在多く受験生が集まり三学科の学生数も増え、安定した学園経営と伺っております。近年、歴史ある短大が廃止になつたり、四大に吸収・合併されるなどのニュースが聞かれ、短大も減少傾向が続いております。そのような現状のなか、

特色あるカリキュラムや教職員の方々のご尽力で、短大としての存在価値を高めていることは、卒業生としてとても誇らしいことであると感謝しております。しかし、社会問題となつてゐる少子化は学校にとって大きな問題です。千草会は直接的な参画はできませんが、会員相互の大きな繋がりがあります。どのように協力するのが正しいのか模索は続きます。

現在、千草会は二年生に奨学金（三学科六名）の支給や学位記ホルダー授与などを行つております。学生会員への貢献にも知恵を絞つて行きたいと思っております。

今まで私自身、会の運営は従来通りの仕事をこなしていくことで、良しとしてきました。しかし、若い会員に対する対応が遅れ、魅力ある活動が欠けていたようにも思われます。幅広い年齢層をもつ同窓会は、総会や支部総会に出席できない会員にも、その魅力を伝えていく手段を検討する必要性を感じております。会報誌『ちばくさ』やホームページの充実の他に、何ができるのか今一度見直し、信頼される千草会を築いていくのが大きな課題と考えております。

千草会の発展のため、皆様方からのご指導、ご助言をいただきながら、日々努めてまいります。最後になりましたが、皆様の日常生活が自然災害や事故などに巻き込まれることなく、平穀で健やかに過ごされますことを願つております。



千草会前会長
鈴木 静子

感謝

幸せを感じています。

会員の皆様、いかがお過ごしですか。お変わりございませんか、お伺い申しあげます。

二〇一七年六月の幹事会を以て、同窓会千草会会长の職を退任いたしました。永きに亘り会員の皆様を始め、大勢の方々からご支援・ご協力を賜り、時には叱咤激励をいただきながら温かく見守つてくださいましたこと、今ここに深く感謝申しあげます。また、私がこの役目を果たすことができましたことは、教職員の皆様にご理解をいただき、色々ご指導があつたからこそです。ありがとうございます。

在任中は唯々日常の業務を処理するのみで、なんの進展もなく改革するでもなく、会の発足以来の信条を守ることで精一杯でした。このような状態のまま、後を引き受けてくださる方がおいでになる

『ちぐさ』六十二号の発刊に際し、思い起こせば元会長増田節子先生より受け継いで、五十一号から「ごいさつ」を載せていただきました。編集については、毎号どのようないいさつを掲載したら良いのか思案しながら、優秀な編集委員の方々とご一緒に続けてまいりました。五十号は記念号でしたから、当時の編集委員で知恵を絞つて、あれもこれもと考え、その上大勢の方々のご協力を得て編集したことを思い出します。今後の『ちぐさ』のご発展を心より祈念いたします。

私の机の中は在職中の物もあります。感謝申しあげます。また、学生時代を含め今日まで、学校との繋がりを保つて来ました。この恩は、何物にも代えがたく深く感謝しております。

今、世界の状況は混沌として、これからどうなるのか私には全くわかりません。二〇一七年も全国各地で起きた豪雨災害や交通トラブル、そして政治の混迷、大企業の不祥事の発覚など、心を痛めることがあります。その上、諸外国に於いてもテロや銃乱射事件が多くなります。

退任するに当たり、身の周りの片づけをしておりましたら、雑多な物が出て来ました。古ぼけた写真など懐かしくもあり、当時の学校の様子などが思い浮かび、苦しめたこと、楽しかったこと、恩

皆様、本当に永い間お世話になりました。感謝するのみです。些やかな能力と体力衰退ですが、少しでも余力のあるうちは、また、皆様に助けられながら同窓生としての孤高を守りたく思っています。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。

二〇一七年十一月記
(生活科四回)



の力ではどうにもならないことばかりで意氣消沈しています。一日も早く、どうぞ平稳無事な世の中の到来することを願つて止みません。そして、本学の方々・同窓生・在学生、否、全国の人たちの上に、輝かしい未来の光が照らされるよう念じています。



学長
小林千春

「自己肯定感の育成」と Toita's 7 promisesについて

千草会の皆様におかれましては、平素から本学へご協力・ご理解を賜り厚く御礼申し上げます。学長職を拝命してから教職員の皆様に支えられ、二年目が終わろうとしております。戸板関子先生の美学を学び社会に貢献できる自立した女性を育成するという思いをしつかりと受け止め、今日の教育に活かすという重い責務をひしひしと感じさて、文部科学省からの要請をうけ、本学でも昨年三月に三つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を策定し、HPなどで公表しました。その際、教育理念を一部改訂し、「本学の教育理念は、時代の要請に適応する実際的な専門の学術技術を教育研究し、広く一般的教養を高め、自己肯定感の高い、社会に貢献できる女性を育成する」と致しました。棒線を引いた部分「自己肯定感の高い」を新たに加えた理由は、私自身が教員として英語教育を通して、どうしたら学生に自信を持たせられるかということを研究してきたことと深く関係しています。というのは、就職の際のエントリーシートにいざ自己PRを書こうとするとき、「私には人にPRできるようなことはないんです：特別なことは何もできませんでした

ので…」と途方にくれる姿を見ることがあります。時間をかけてゆっくりと話を聞く中で、「部活で三年間マネージャーをして部員を支えていた」、「三年間クラシックバレエを続けていた」、「働いているお母様の代わりに、食事の世話や勉強など、幼い弟と妹の面倒をみていた」など、長所として記すに値する点を発見し、驚かされることもしばしばです。十八年間の人生の中に一人ひとりの貴重なエピソードがあると改めて学生たちを感慨深く見つめ直したりもします。

自己肯定感といえば、アメリカの小学校でよく使用されている、「Show and Tell」があります。生徒が自宅から自分の好きなものを持ってきて、クラスメートの前で発表するというものです。この「Show and Tell」の良いところは、自分が一番よく知っていることを自慢できるということです。この手法は高等教育のなかでも応用することができます。この「Show and Tell」の見直しを検討しているところは、自分が一番よく知っていることを自慢できるということです。このなります。現在、学内でカリキュラムトマーショナ化により、クリエイティブティ、オリジナリティの必要な職業は消えていく時代に突入することになります。精神を培うことで、学生たちの将来が、単に仕事をこなすのではなく、積極的に奉仕の精神で行う気持ちをHospitalityとして集約致しました。7Promisesの精神を培うことで、学生たちの将来が、豊かに、幸せに、そして充実したものになることを願っています。

トは真剣な眼差しで聞き、終わると拍手が溢れ、その後活発な質問やコメントタイムに移りました。英語でプレゼンした達成感、さらに自分の能力を再確認したことでの、彼女自身の自己肯定感を高めることに繋がりました。このような授業実践例を日本やアジアの国際学会で発表したところ、多くの研究者から「自分の大学でも実践したいから詳しく教えてほしい」という、から「自分の大学でも実践したいから詳しく教えてほしい」という、から詳しく述べました。戸板関子先生が裁縫を学ぶ姿勢として好んで使用された「至誠貫徹」は、最後まで誠実にやり遂げることで、Sincerityと致しました。女性として忘れてはならない品格をEleganceとして挙げました。また、他者の気持ちを慮る優しさをSharingとし、偏見や差別なく常に公正な目で判断する心をFairnessとまとめました。女性として忘れてはならない品格をCommunicationとして挙げました。

Toita's 7 Promisesはこの二つ目の力を念頭に入れ策定したもので、今後予想もできない激動の社会を生き抜く

ときに必要となる「自身の内面の力」

を頭に入れたのであります。今後

予想もできない激動の社会を生き抜く

ときに必要となる「自身の内面の力」

同窓会総会風景

被服科十五回 田村篤子



平成二十九年六月十八日（日）第

三十五回千草会総会が日比谷の「松本楼」で開催されました。木立に囲まれた会場からは日比谷公園の噴水も見え、梅雨時で天候が心配されましたが、曇り空ながら清々しくさわやかな雰囲気で、六十三名の卒業生が参加してくださいました。今回は会員の親睦を図ることを主として計画しましたが、学長小林千春先生（千草会名誉会長）と元生活科非常勤講師の岩本千鶴子先生がご出席くださいました。

井部奈生子（生活科四十六回）常



任幹事の司会で総会が始まりました。山口不些子（生活科十二回）常任幹事の開会のことば、続いて小林操子新会長（被服科十八回）から六月十日の幹事会で承認され、会長が交代した旨の報告がありました。今般重責を担うことになり改めて身の引き締まる思いであり、前会長同様によろしくご支援、ご協力をお願ひしたいとの挨拶がありました。また鈴木靜子前会長（生活科四回）からは十一年余会長を務めましたが、無事新会長にバトンタッチできて大変嬉しくほつとしています。皆様のご協力があつたればこそと感謝してお

ります。これからも幹事として残りますのでよろしくお願ひいたします、とお礼の挨拶がありました。

続いて名誉会長である学長小林千春先生から、昨年四月から学長をお引き受けしていますが、この場に伺い同窓生の強いつながりを大変実感しています。幸い本学は学生数も順調に確保できており、これも同窓生のご協力と感謝しております。また文部科学省から教育の可視化が求められており、本学では学士力、教育課程の編成、入学者の選抜について検討し、HPにも載せていました。短大として生き残るためににはブランド力が必要と考えていますので、今後ともよろしくご協力いただきたいとのご挨拶がありました。

こののち北海道支部、福島県支部、栃木県支部、宮崎県支部から参加された方々から各支部の現状報告がありました。

総会の最後に長年ご尽力くださった鈴木靜子前会長に感謝をこめて、小林操子新会長からお花が贈呈されました。

休憩をはさんだ後の懇親会では、元生活科非常勤講師の岩本千鶴子先生の挨拶があり、佐藤恒子様（生活科四回）の乾杯の音頭ののち会食しました。

和氣藹々のうち全員で「校歌」を齊唱。新保佳寿子（被服科十回）常任幹事の閉会のことばで懇親会を終了。名残りを惜しみながら、散会しました。

その後席を移し、各支部の方々と常任幹事との話し合いがもたれました。

となり、美味しいフランス料理をいたしました。また後半には塩満友紀様のアルパの演奏があり、流れる音色と軽妙なトークを楽しみました。



千草会会員の皆様、お久しぶりでございます。私は一九八二年に就職し二〇〇五年三月に退職するまで、戸板に二十三年間勤務いたしました。皆様には大変お世話になりました。戸板は私にとっては故郷のようななところです。生まれ故郷の松本市のホームページとともに、しばしば戸板のホームページを閲覧し、皆様が元気にご活躍している様子を拝見しております。

戸板では多くの経験をさせていただきましたが、なかでも教職員の皆様や卒業生の皆様と一緒に作つた教養科目「職業とライフデザイン」の授業は、思い出深い経験となりました。私が就職したころはオイルショック後の低成長期とはいえ、日本はまだ右肩上がりの経済成長を続けており、学生の就職は大学や短大にとってそれほど大きな課題ではありませんでした。しかし、一九九三年にバブル経済が崩壊し、就職氷河期を迎ると大学等の就職対策も強化されはじめ、戸板も、他校と同じよう



元総合教養科教授
久保 桂子

「職業とライフデザイン」の思い出

に就職支援の体制を強化することになったよう思います。さらに、二〇〇〇年代初めにはキャリア教育も広まり始め、戸板でも二〇〇三年に教養科目の一つとして「職業とライフデザイン」というキャリア教育科目を開講し、私が科目担当者になりました。

この科目の名称の「ライフデザイン」については、当時のシラバースの講義内容に「ライフデザイン」とは、自分の人生において実現したい夢や願望を思い描き、それを実現するための計画を組み立てていくこと、いわば人生の設計図を作ることである。それは、自分らしい生き方を、自らの手で実現していくために、社会環境の変動を視野に入れながら、いつ、どこで誰と、何をどのように行つていくかを大きな設計図として描き出す、意思的、主体的かつ創造的な作業である」と記しました。学生が仕事を考えるに際して、生き方も同時に考えてほしいという思いからこの名称をつけました。

科目担当といつても、私が担当する回は三回ほどで、主にはコーディネーターとしてゲストスピーカーの組織、依頼、内容の打ち合わせなどを担当しました。ゲストには、教職員の皆様のご協力で様々な分野の方を招くことができました。例えば、航空会社の人事部で客室乗務員の教育も担当されていた研究員の方には、英語の学習方法と海外事情とともに、航空会社の仕事についてお話をいただきました。乗務員の態度や言葉掛けが乗客の旅を楽しくできるというお話は、当時の在学生には大いに参考になつたと思います。また、有名ホテルチエーンのホテルマンの方には、企業が求める人材、ホスピタリティについて、大手食品会社の研究員経験のある本学の先生には、食品会社の仕事内容について、大手ファッショングランドで働く卒業生には、仕事に必要な能力などについてお話しいただきました。さらに、就職支援関連業界の方もゲストに招き、自分の能

力・魅力・感性の磨き方とともに、就職試験のノウハウなど、実際の就職活動のイメージをお話いただきました。そして、戸板の先生方には、教職員の皆様のご協力で、戸板の先生方の身につけ方の授業や、自己分析や適性テストで過去・現在・未来の自分を見つめながら、働き方を考えるという授業も行いました。顧みれば、日本の大学が学生を教育するだけの場であつたところから、学生が社会に出て活躍できる道筋を見出せるようにサポートする場にもなつてきた、そうした転換点に立ち会つたように思います。

私は現在、千葉大学教育学部で家庭科の教員養成に携つております。職場は変わつたとはいえ、求められているものは共通しているように思います。今後も、若い学生たちが自信をもつて大学を卒立つていけるように、さまざま形でかかわつていければと思つてあります。



元食物栄養科教授
小築 康弘

戸板まで そして岡山から

去る九月に突然、元傍輩の食物栄養科西山良子先生から連絡を受けました。同窓会誌の件などのことでした。詳しく聞くと執筆依頼とのことでしたが、二〇一二年に転居し六年以上をのんびりした岡山市で生活をしている私は、戸板時代、東京時代のことをだいぶ忘れてしまっていました。しかし、やりとりの中で、ともに仕事をさせていた大島元服飾芸術科長小林操子先生や元教務課長の田村篤子さん、当時も同窓会の仕事をなさいた古関美和さんのお名前を拝見したり、やりとりをしていながら、徐々に当時の感覚が戻つてきました。以上のような経緯をたどり、執筆を引き受けさせていただくことにしました。

私は、二〇〇一年四月から二〇一二年三月までの十一年間、戸板女子短期大学食物栄養科において基礎栄養学や食品学実験などの授業を担当させていただきました。

その後、岡山市の中国短期大学総合生活学科へと異動しました。なぜお世話になつただけでなく、私を育ててくれた戸板を離れたのか？ それには二つの原因がありました。それは『健康』と『大地震』でした。

『健康』って？と思つてらっしゃるでしょう。戸板時代、一番ひどい時の私は電車で居眠りをしてはつと目を覚ますと、目の前の景色が黄色のフィルターをかけたように見えて、三十秒くらいかけて色が戻つてくるような状態で仕事をしていました。当時の私は、大概のことは無理が効くと過信をしていましたが、ちょっと仕事を続けていましたが、ちょっと仕事で戸板時代のことを思い出しました。しかし、なんなに治らなかつた風邪があり、あんなに治らなかつた風邪が二日ほどで簡単に治つてしましました。健康で丈夫だと自己判断していた当時の私は、無理はいくらでも効くと思っていました。「保健」の文字にあるように「保ちづけなければ『健康』ではいられない」ことに気づき、休むことの重要性を実感するようになります。

あの当時、多くの人がそのような感覚を抱いていたのではないかと思いますが、私もその一人でした。いろいろなことがあり、改めて自分自身について考え、このままの働き方で良いのかと疑問を抱くようになりました。そこで、再

打つてもらい、ようやく弱々しくではあります、動けるようになつたという経験をしました。さらに、「週間安静に過ごしていら、あんなに治らなかつた風邪が二日ほどで簡単に治つてしましました。健康で丈夫だと自己判断していた当時の私は、無理はいくらでも効くと思っていました。「保健」の文字にあるように「保ちづけなければ『健康』ではいられない」ことに気づき、休むことの重要性を実感するようになります。

ここ数年の戸板女子短期大学の躍進を元教員としてとても嬉しく思っています。いくら都心にあるとはいえ、不利な短期大学、そして女子大学というカテゴリーの中、現在の状況をもたらしたのは戸板女子短期大学に関わる皆様の並々ならぬ努力によるものでしょう。今後も、さらに五十年一〇〇年と歴史を刻み続けていくものと期待しつつ、私の文章を閉じたいと思います。

スタートを切るために職場を変えた決断をしました。

岡山市は政令指定都市ではありますが、大都市ではなく、かと言つて地方都市に見られるような人の少ない閑散とした状態ではなく、多過ぎず少な過ぎずの人が行き交う町です。物価も安く、非常に暮らしやすい場所で健やかに生活をさせていただいております。以前は考えられませんでしたが、十八時前には職場を離れ、自分の時間を大事にするようにしています。現在の勤務校はそういうことをしやすいおおらかな職場です。私はこのような風土が良いのかもしれません。その証拠に、とても『健康』に生活することができます。

三回目の成人式を前に

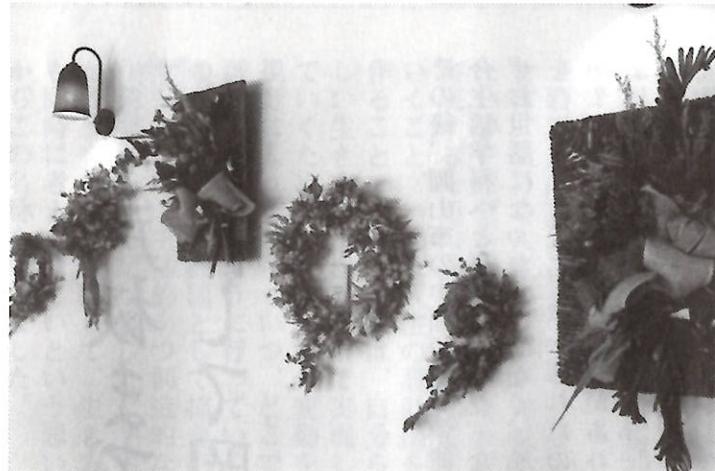
被服科30回

高橋 昌代



今、蓼科は紅葉のすばらしい季節で、夜には満天の星がきらめいています。結婚して間もなく蓼科に移り住み、かれこれ三十四年、畑と庭を苦しみながらも楽しみ、夫婦でレストランとコテージを営んでいます。

散歩に行つては、草花を摘み、糸を染めたり、織つたり、木の実や蔓を採つてきてはドライフラワーにして、リースを作つたりしてきました。庭先にある自然すべてが私をわくわくさせるおもちゃになりました。



子供に手がかからなくなったら、東京に習い事に行こうと決めていました。やり残した染と織をもう一度勉強しようと思つていました。ところが、縁あつて花のアレンジのお教室に誘われ、楽しい仲間と一緒に出会い、英国までガーデン巡りに行くほど、夢中になりました。

のためにはベビー・キルトを作りました。カルトナージュ、トルペイント、藤細工等々。気になる事はみんなやらせてもらいました。考えてみると、みんな手作業でした。

現在、私は蓼科の気候に合っているドライフラワーのアレンジを製作・販売・お教室を本業の合間にやっています。私の大好きな花達を使い、すてきなアレンジをする先生の所でレッスンを受けています。そのための上京も楽しみながら…。

お客様の笑顔と季節の移ろいを感じながら、好きな事・好きな物にかこまれ、六十・七十・八十代と手仕事しながら暮らしていくのだろうと思ひます。かわいいおばあちゃんになるために、手先と笑顔を磨いていこうと思つています。

(二〇一七年秋記)

主人は畑で野菜を育て、庭の草花は私の担当。すべてレストランの食材になり、花々は食卓の彩りになります。余すところなく使いきっています。理想の形ですね。本人



達は必死でやつきましたが、これからは少しゆつくり、味わって暮らして行きたいです。

戸板卒業三十四年目の春に 向けて…思うこと



生活科35回

木口 圭子



八王子校舎での懐かしい学生生活から卒業して、三十三年が経ちました。あつという間の年月。流れゆく思い出の数々…。

最初に、目黒区で始めて設立という特別養護老人ホームの栄養士として就職しました。戸板栄養士会会長の鈴木靜子先生がご紹介してくれださった施設です。「さて、出来るだろうか?」という不安さを鈴木先生が「やるしかないでしよう!」と背中を押してくれました。鎌倉の実家から東京の一人暮らし。嬉しくもあり、寂しくもあつたように思います。

駆け出しの一年生栄養士に、新しい施設。社会福祉施設が職場という環境、現場と事務の両立、利用者さんからのリクエスト、毎日が失敗と反省と涙と学びであり、毎日が新鮮で感動でした。その十

年後には東京都社会福祉協議会の栄養士役員会で知り合った栄養士さんから「一緒にやらない?」と声がかかり、栄養士として中央区で新しい施設の立ちあげに関わることになりました。今まででは、法人一施設で働いていた私には、法人内にいくつもの特別養護老人ホーム・病院があるのは、大変面白そうな気がして、新しい法人へ移籍しました。忙しいけれど、楽しく大変だけどやりがいがありました。

気がつけば、この三月には創立一〇〇周年を迎えるこの法人に二十三年在籍しています。

栄養士から管理栄養士、ケアマネジャー、人間ドック健診情報管理指導士の資格を取得。特別養護老人ホームから病院。栄養科長から事務次長という施設間異動、職種異動の経験をしました。病院から外の仕事が少しずつ始まり、栄養士養成の教育、生活支援センターの実習講師、関東豆腐協会のコンテスト審査員など様々です。

そして十年前から関わってきた「すみだの食育」これはまた、全く新しい分野でした。墨田区の行政栄養士から「食育のまるごと」を学びました。それは食を通して人がつながる、つながることでモノ・コト・人が縦のつながりではなく、横を串刺しのようにしたつ

ながらであること。それが地域の中で「まちづくり」ということでありました。

二〇一〇年四月に、区民・地域団体・NPO・事業者・企業・大学などに賛同いただき『すみだ食育goodネット』を設立。二〇一五年六月には、内閣府と墨田区の主催により「第十回食育推進全国大会」が墨田区で開催。さらに「すみだ街かど食堂」という世代間を超えた多世代型のコミュニティの食堂を二〇一六年からオーブン。これは、社協、NPOとの三者の協働運営となりました。

この十年携わってきた「すみだの食育」とは、東日本大震災を経て、平時の食のつながりは、災害時の食支援へとつながるように取り組むことである…という明確なミッションが確立されたように思いました。

二〇一六年度より初代理事長からバトンを受け、私は新理事長として二年目が過ぎるところです。時代とともに変化していく「栄養士の役割」を沢山の人の力を借りて、求められるままに歩んで来ました。この三十三年間の感謝を三十四年目の春に向けて…思うところです。

人生まるごと愛してる



英文科41回

高橋 ゆき

私は、一九九九年に夫と共に家事代行サービスの「株式会社ベアーズ」を創業しました。私たちは、会社を創るということよりも「家事代行」という新しい産業を確立し、日本の暮らしの新しいイノフラーを目指しています。現在は取締役副社長として、また家事研究家として楽しく活動しています。私は、写真家の父と起業家の母の間に生まれました。起業家の母は常にアグレッシブでエネルギーッシュで太陽みたいな人、写真家の父は非常に芸術肌で月のような人でした。常にこの神秘的であり発想力があつてクリエイティビティあふれる父と、ダイナミックで、パワフルでエナジー一五〇%みたいな母の間に育ちましたので、とにかく小さなころから人生つて素敵だなと思う、超スーパー・ポジティブガールでした。

そんな私の座右の銘は「人生まるごと愛してる」です。生きていれば嬉しいこと、悲しいこと、楽しいこと、悔しいこと、いろいろなことが起こります。どうせ人生は思う通りにはならないことの連続です。でも、人生は選んだ通りに成る!というか、自らが選んできた道の集大成が良くも悪くも

事代行サービスの「株式会社ベアーズ」を創業しました。私たちは、会社を創るということよりも「家事代行」という新しい産業を確立し、日本の暮らしの新しいイノフラーを目指しています。現在は取締役副社長として、また家事研究家として楽しく活動しています。私は、写真家の父と起業家の母の間に生まれました。起業家の母は常にアグレッシブでエネルギーッシュで太陽みたいな人、写真家の父は非常に芸術肌で月のような人でした。常にこの神秘的であり発

想力があつてクリエイティビティあふれる父と、ダイナミックで、パワフルでエナジー一五〇%みたいな母の間に育ちましたので、とにかく小さなころから人生つて素敵だなと思う、超スーパー・ポジティブガールでした。

そんな私の座右の銘は「人生まるごと愛してる」です。生きていれば嬉しいこと、悲しいこと、楽しいこと、悔しいこと、いろいろなことが起こります。どうせ人生は思う通りにはならないことの連続です。でも、人生は選んだ通りに成る!というか、自らが選んできた道の集大成が良くも悪くも

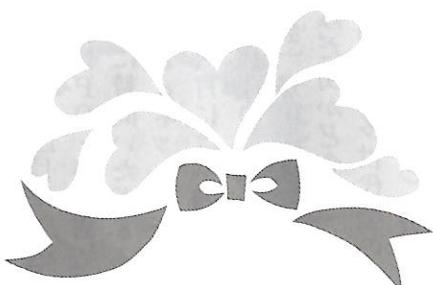
「今」の自分だと私は思っています。平坦な場所は無い我が道だからこそ、朗らかに笑って歩んで行こうと思います。

そして私は、大切にしたい人を支えられる自分でいたいから、自分の心身を鍛えることを意識しています。愛する人の幸せにつながるはじめの一歩は、昨日の自分を超えていくことだと、私は思っています。『愛する心』ごと自分を鍛える最高のトレーニングは、自分が自分を超えていくことを意識し『意志』を持つて「あきらめない・ごまかさない・にげない』ことです。

皆さんの人生が益々輝きますように…。すべてのご縁に感謝いたします。

「明日の太陽はだれにも必ず昇つてくる、だから時に立ち止まり反省することはあつてもメソメソしたり悲しんでいる時間はもつたらない。人生はあつという間だからね、後悔しないよう前を向います。愛する人の幸運につながるはじめの一歩は、昨日の自分を超えていくことだと、私は思っています。『愛する心』ごと自分を鍛える最高のトレーニングは、自分が自分を超えていくことを意識し『意志』を持つて「あきらめない・ごまかさない・にげない』ことです。

そして、必ず他人のために生きられる人間になるために、自分を大切にするんだよ」



最後に、他界してしまった最愛の父からもらった言葉を、皆さん

に贈りたいと思います。

「明日の太陽はだれにも必ず昇つてくる、だから時に立ち止まり反省することはあつてもメソメソしたり悲しんでいる時間はもつたらない。人生はあつという間だからね、後悔しないよう前を向います。愛する人の幸運につながるはじめの一歩は、昨日の自分を超えていくことだと、私は思っています。『愛する心』ごと自分を鍛える最高のトレーニングは、自分が自分を超えていくことを意識し『意志』を持つて「あきらめない・ごまかさない・にげない』ことです。



元理事長・学長
小野 一成

『大名屋敷と庭園』



図① 旧因州(鳥取)池田藩江戸上屋敷正門

戸板女子短期大学の現在の敷地は、旧地名を「三田四国町」といった。江戸時代に、阿波・土佐・讃岐・伊

予の四国の大名の藩邸があつたことから由来する。近くには、薩摩藩上屋敷があり、幕末には篤姫時代の天璋院が一時滞在し、西郷隆盛も出入りしていたことで知られる。

江戸時代、幕府は配下の大名には、参勤交代で在府時の滞在先を強制的に割り当てた。初期の頃は、江戸城周辺に警備を兼ねたものであったが、明暦の大河(一六五七年)以降、江戸の市街地の発展につれ、屋敷の所在地も江戸中に広まつていった。

藩邸には「上屋敷」「中屋敷」「下屋敷」の三種類があつて、用途に応じて使い分けられていた。

「上屋敷」は、主に藩政事務と藩主及びその家族の住まいを兼ねたものであり、現在の大本館のイメージに近いといえよう。大藩では、威儀のある正門を構え、その格式を

誇った。(図①)「中屋敷」は、藩の規模により置かれたり置かれなかつたりするが、藩士たちの宿舎として使用されることが多かつた。

これに対し「下屋敷」は使用目的

の制限も緩かつたため、災害時の避難所や、隠居所、資材置き場の他、藩主の別宅として庭園なども整備された。中には藩主の許可を得て、武道場や藩士の子弟向の塾、更には緒方洪庵や福澤諭吉のように学問塾を開いたりする者も少なくなかつた。

財政的に余裕のある大名は、屋敷の庭園に趣向を凝らし、花鳥風月を愛でて楽しんだ。尾張徳川家にいたっては二代藩主光友が下屋敷の一つ「戸山荘」を隠居後手がけ、以降代々の藩主によって造営が続けられた。その庭園は東海道を模して「箱根山」などの風景を集約するばかりか「小田原宿」と名付けた虚構の「町屋」をしつらえた。旅籠、米屋、酒屋、

三田界隈物語 8



図② 六義園



図③ 旧安田庭園

薬屋、下駄屋、鍛冶屋など本物とまがうばかりの店が軒を揃え、宿場女客引きや職人を大勢雇い、実際の宿場町の賑わいを再現させた。その賑わいは評判となり、何回も將軍の訪問(御成り)を受けた。

明治維新以降、大名庭園は、元勲の賑わいは評判となり、何回も將軍の訪問(御成り)を受けた。

財閥の屋敷の庭園となつて残されたものもあるが、その後、関東大震災や戦災で破壊されたり、都市開発計画により多くはその姿を消した。今 日東京に残っている大名庭園では、水戸徳川家上屋敷跡の「後楽園」、柳沢家下屋敷跡の「六義園」(図②)などが有名である。その他、自然観察園として利用されている陸奥守山藩上屋敷跡の「占春園」、関東大震災で被害を受けたものの、復元された笠間藩下屋敷跡の「旧安田庭園」(図③)など、小規模のものも含めると二十か所を超えて、都会のオアシスとなつてている。

生活科	* 楠 香代子 (29回)	有川美代子 (42回)
牧 充子 (10回)	山口不些子 (12回)	島村 優香 * 松田 果子
永山タニ子 (18回)	佐藤 良子 (19回)	本間 光
* 増野 弥生 (31回)	* 西山 良子 (36回)	
佐々森典恵 (45回)	* 井部奈生子 (46回)	
服飾芸術科	有松 静 (12回)	
鈴木 静子 (生4回)		
◎顧問		
長澤 弘子 (生16回)		
*堀口 茂子 (生27回)		

新幹事紹介	平成二十九年四月より新幹事になられた方を紹介いたします。任期は二年です。（*印は学内幹事）
生活科	菅沼 久代 (13回)
英語科	佐々森典江 (45回)
被服科	福増 純子 (44回)
服飾芸術科	齊藤 彩 (13回)
国際コミュニケーション学科	河田 知子 (11回)
食物栄養科	斎藤 悠衣 (1回)
* 川瀬 仁美 (11回)	
平成二十九年三月卒業の新幹事	
服飾芸術科	北村 佳菜 (1回)
食物栄養科	* 青木 萌 (1回)
食物栄養科	* 鈴木 仁美 (1回)
高須 尚子 (16回)	
中山 風戸 春香 (15回)	

■会員会費について	平成二十八年度の会費納入者は、学生会費四百八十四名・年会費七名・終身会費七名でした。
■雑収入について	平成二十八年度ご寄付を四名の方より頂戴いたしました。
■学生費について	平成二十八年度の会費納入者は、学生会費四百八十四名・年会費七名・終身会費七名でした。
卒業生への記念品（学位記ホルダー）代として支出いたしました。	平成二十八年度の会費納入者は、学生会費四百八十四名・年会費七名・終身会費七名でした。
会費納入について	平成二十八年度の会費納入者は、学生会費四百八十四名・年会費七名・終身会費七名でした。

■会員会費について	昨年三月『ちぐさ』第六十一号を皆様のお手元にお届けしてから、住所不明者として三百九十七通が戻つてきました。大変残念に思つております。
■雑収入について	毎号『ちぐさ』の誌面でもお願いをしておりますが、住所変更や改姓の折には、出身科・卒業回数または卒業年・クラスなどを書いて、同窓会事務室まではがき・FAX・メールで連絡ください。お電話でのご連絡は、間違いの原因にもなりますのでお控えください。
■学生費について	なお、同窓会事務室の開室時間・担当者は左記の通りです。
卒業生への記念品（学位記ホルダー）代として支出いたしました。	なあ、同窓会事務室の開室時間・担当者は左記の通りです。
会費納入方法が昭和五十三年三月に切り替わっています。	なあ、同窓会事務室の開室時間・担当者は左記の通りです。
昭和五十二年三月以前に卒業された方は、年会費（千円）あるいは終身会費（一万円）のいずれかの納入方法を選択することができます。この納入制度切り替え時以後、未納の方には、会報誌『ちぐさ』をはじめ同窓会からのご連絡が途切れています。	なあ、同窓会事務室の開室時間・担当者は左記の通りです。
草会のホームページへリンクしております。年間行事報告及び行事予定や活躍されている卒業生も紹介しておりますので、是非ご覧ください。	なあ、同窓会事務室の開室時間・担当者は左記の通りです。



戸板を思う今、
そして未来へ

被服科二十七回

高久 良子

先日、自宅近くのサービスつき高齢者向け住宅に勤務する知人から、私を戸板へ導いてくださいた先生が、その住宅に入所しているということを伺いました。そんな矢先に偶然にも『ちぐさ』への原稿依頼のお話をいただき、とても運命的なものを感じました。

私も昨年還暦を迎えた年月をしみじみ思う今がら過ぎた年月をしみじみ思う今この頃です。

戸板女子短期大学には一九七五年に入学し、戸板服飾研究所を経て、一九七八年から五年間、副手として勤務させていただきました。当時は、学長青木英夫先生をはじめ、被服科長メイ・S・青木先生、辻本治代先生、香取智恵子先生、岡本茂子先生など、今は亡くなってしまった先生方に、大変お世話になりました。家族的な雰囲気の温かい職場でした。戸板女子短期大学で過ごした八年間

は、私にとつての青春だったと懷かしく、そして輝いています。今でも、長谷川喜久子先生、堀内千加子先生、小林操子先生とは、年賀状のやり取りをさせていただいている。退職後は専業主婦として、夫や二人の子供たちの世話に明け暮れ、PTA活動も下の子の高校時代まで続けておりました。

まもなく平成も終わろうとしています。SNSを使った犯罪の横行、AIの進化がもたらす様々な変化など、時代の急速な流れについて行げずに戸惑っています。

戸板女子短期大学も含めこれらの方々の未来を、若い人たちに託さなければなりません。いつの時代にも「今の若者は」と言われ続けてきているので、それほどまでに憂えることは無いのかもしれません。私が、私ぐらいのおばさんとしてはとても心配です。くれぐれも人としての心だけは失わずに、大切に持ち続けてほしいと思います。

二十歳の自分。今思うと、とても失礼な話ですし、そんな自分がどうしてこんなおばさんとしてはとても心配です。くれぐれも人としての心だけは失わずに、大切に持ち続けてほしいと思います。

気がつけば二十七年もの年月が経った。二十世紀から二十一世紀に変わり、まわりのすべてのこと

時代の流れとともに

被服科四十一回

高橋 ひろみ

戸板女子短期大学在学中の卒業間近、ご縁があつて学校法人戸板学園戸板中学校・戸板女子高等学校時代まで続けておりました。高校時代まで続けておりました。当初より、「中高部の校舎の移転まではあと二年で、その後には世田谷の用賀に移転する予定だけど大丈夫ですか?」のお話に、何も考えず「大丈夫です」と答えてしまつた。世田谷?用賀?これまで全く無縁の土地…。二年間三田で勤務し、その次はどうにかなるかなという、いわば安易な考えでいた前でも、まさか共学校が現実になるとは想像もしなかつた。伝統ある女子校が、今では何の違和感もない男子生徒が元気に走り回っている。これが時代の変化なのでしょう。

若い人達にはこれからめまぐるしく変化する世の中に、物怖じせず対応できる人間力と、創造力豊かな人になつてほしいと心から願っている。



そろばんと出会つて

生活科十八回

横井 順子

戸板を卒業して、金融機関に入社をしました。その当時は、機械化になる狭間の入社で、そろばんを使用していましたが、機械化に移行しそろばんの出番がいつしかなくなつてしましました。

結婚をして専業主婦をしていましたが、昭和五十二年に近所にそろばん塾ができました。一級は取得していませんでしたので、挑戦してみようとの心意気でおけいこに通いました。当時はそろばんのブームで、一級を取得し、半年後に先生の教室を引き受けたことになりました。当初五十名だった生徒が、先生にお返しをする時には、三倍もの人数になつていました。

昭和五十三年に念願の自分の教室を二か所立ちあげることができました。子供たちとのふれあいの中で、子供たちから学ぶ楽しさ、指導することの難しさを痛感する日々でした。

珠算連盟に入会しましたが、行

事が多く何か芸の一つでもと思ひ、日本舞踊を習い三十年以上にもなります。最近では、浅草公会堂で踊れたことが大きな喜びとなっています。

平成二年に、日本珠算連盟の先

生方に発行する機関誌の編集委員に携わつてとのお話があり、今までこの年齢で頑張つております。

編集委員になつたことで友人も増え、いろいろなお誘いがあり、横田基地の中にあるウエスト小学校でそろばんのボランティア授業に参加させていただいたことは、貴重な体験となりました。

また読売文化センターのカルチャースクールでのそろばん講座依頼に続き、指導者として何か所からかお声がけをいただけることは、大変幸せなことと思つています。

今は自分の教室とさいたま市の小学校のチャレンジスクールで、そろばんを指導しています。子供たちに囲まれ、いつまでも若々しくいたいと思います。生涯三万日といわれていますが、それまで悔いなく生きていきたいと思つています。

珠算連盟に入会しましたが、行くすると書きますので、頭のどこへ残しておき、忘れないように

古稀を迎えて思うこと

生活科十八回

遠田 政子

胸はずませ入学してから五十一年、半世紀が瞬く間に通り過ぎていきました。古稀というのは母の年であつたのに、時というのは容赦なく訪れ、必ず目の前に現れる道。時間は全ての人々に平等に与えられているものの一つで、人々は自分なりの歴史を作つています。そして、私も振り返ると高校

は家庭科、戸板短大では生活科と、食に関する事を学んできました。ある程度の基礎的な知識が身についたおかげで、口に入れる物はできるだけ基本は手作りで自然からの収穫物を、と心掛けているつもりです。しかし、便利な世の中にあり手抜きができる、すぐいただける物が目の前にはあふれていて、適当に利用しているのも事実です。「母の手作りです」と言う言葉が、遠い彼方へ消えて行きそう

です。きれいな言葉を使うことは、注意しなさい。二つ目は「言葉」です。その人の美しさや人格がにじみ出るからです。昔からの教えだと母の伝言でしたが、現在最も必要な時代になつたような気がしている

したいものです。
母から受けた教えに「真心」と「口元くちわんを大切に」があります。真心なくして行うことは良い結果にならないし、喜んでもらえるものにはが口癖でした。



卒業

英文科三十二回

福嶋 久子

卒業して早三十二年、同窓会誌『ちぐさ』への原稿執筆依頼のお話をいただきて、改めて短大時代のことを振り返つてみました。

私は戸机いは知力から人、たゞ
め、入学当初は知つてゐる人がほ
とんどいなくて、緊張して過ごし
ていた氣がします。間もなく親し
い友達もでき、この仲間とはラン
チや旅行をしたり楽しい日々を過
ごしたことが思い出されます。残
念ながら勉強のことよりこれら
思い出の方が中心で、今思うとも
っと勉強をしつかりとしておけば
よかつたと後悔しています。今で
もたまに短大時代のお友達と会う
ことがあります、その時は学生時代に
戻ったような気分です。

現在私は、子供の幼稚園の時か
らのお仲間の誘いで、ストレッチ
&ダンスの教室に週に二回通つて
いて、二十五年ほどになります。
二～三年に一度公演もあり、小さ
な舞台ですが非日常が楽しく、良

飼うならやはり保護犬がいいと思つていましたので、ボランティア団体の方に育てられて三歳のパピヨンの男の子が、縁あって我が家にやつてきました。生き物を飼うことは色々大変ですが、息子が幼稚園の時に飼っていたウサギのミュウ、先代ワンコのルビー、さらに今のロコと常にペットがいる生活は私にとってかけがえのないものです。息子も昨年結婚し、ようやく肩の荷が下りほつとしているところです。

く、もう一度とこんな悲しい別れはしたくないと思つていたのです
が、息子が社会人になり一人暮ら
しを始めるということになつた
時、家の中が少し寂しくなるので、
もう一度犬を飼いたいという気持
ちになりました。

八年間の大きな夢

国際コミュニケーション
学科十四回

杉田佳和子

に観たドラマでした。普通はドラマの影響で職種に憧れを抱くのかかもしれません、なぜか私はそのドラマに全面協力をしていたANAという会社に強く惹かれ、憧れを抱きました。まさに一目惚れでした。

それから何度も何度も空港へ足を運びました。私にとって空港はパワースポットであり夢の国、そして私にとってANAは活力であり笑顔の源。「大好きなANAのお役に立ちたい。憧れを憧れだけでは終わらせない、何が何でも私

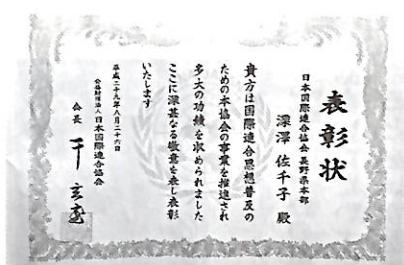
七年その夢を叶え、現在は「ANAケータリングサービス」というANAの機内食を手掛ける会社で、機内食を一食ごと最終チケットとして空へ送り出しています。きっかけは八年前、中学生の時に観たドラマでした。普通はドラ

れない」そんな時もう一度這いあがれたのは、私を支えてくださつた方々がいたからです。戸板だからこそ素敵な出会いに巡り会うことができ、叶えることができた八年間の夢。そしてひたむきに夢を追いかけた八年間は私の宝物です。どんな時も初心を忘れずに。その先のお客様の笑顔をたくさん咲かせることができるよう、大好きな場所でこれからも日々精進していきます。

の宝物です。どんな時も初心を忘れずに。その先のお客様の笑顔をたくさん咲かせることができるよう、大好きな場所でこれからも日々精進していきます。

は必ずANAに入る」私はそう強く決意し、戸板女子短期大学に入学しました。

深澤 佐千子様（生活科十五回） おめでとうございます



当協会は、一九四七年国民の草の根運動の集まりとして活動を開始し、一九五六年日本は第八十番目の加盟国になりました。現会長は、文化人である前裏千家家元の千玄室様で、諸外国との文化交流を深め、今日に至っています。国連機構を多くの方々に少しでも身近に感じていただけます、食イベントの正しいあり方を探つておられます。世界の食文化に関わる人々が集結した一九九年の信州博覧会以来「食べる喜び」「作る喜び」を見る喜びを基に、研究・交流・活動をし、相互の研鑽と資質の向上に努められています。深澤様も二十一年前に入会し活躍されておられます。ご自身は、卒業と同時に戸板女子短期大学生活科の研究室に二年間勤務されました。目標は「一〇〇歳までどう生きるか」とおっしゃっています。

当協会は、一九四七年八月二十六日「公益財團法人 日本国際連合協会」より設立七十周年にあたり、深澤佐千子様が表彰されました。

学生会員大活躍

芝消防団ポンプ操法大会

五月二十一日（日）に芝公園で芝消防団ポンプ操法大会に在学生十四名が参加し、放水訓練の実演・受付・案内・表彰補助など、大会運営のお手伝いをしました。昨年度から在学生も、学生消防団員として芝消防団に入団し、今年度も二年生十名が入団しました。



運動部の活動

- 八月八日（火）から十日（木）まで 第五十二回全国私立短期大学体育大会にバスケットボール・バドミントン部・テニス同好会が参加しました。



農業体験

昨年から在学生がボランティア演習の授業を通して、八ヶ岳・富士山・甲斐駒ヶ岳の絶景を眺めながら、農作物収穫や加工のお手伝いをしていました。本年度は二十二名が「市農業企業コンソーシアム」の活動の一環として、山梨県北杜市白洲町でジャガイモの収穫や白菜の苗植えなど田舎暮らしの魅力体験を行いました。



山梨日日新聞9月6日（木）より

・十月十五日（日）

第五十八回 東京都私立短期大学体育大会にて、バドミントン部が出場し、三連覇を果たしました。また、テニス部は初優勝をしました。



支部報告

北部九州支部総会 ●六月四日（日）

福岡市 ホテル福岡ガーデンパレス

の針坊主が配られ皆大はしゃぎでした。
刻々と時間もせまり、次の会も盛会であること
を感じながら閉会となりました。

六月四日（日）に、福岡市の天神駅に近いビル
街にあるホテル福岡ガーデンパレスで、第二十一
回北部九州支部総会が開催されました。曇り空の
はつきりしない天候でしたが、会員の皆様の晴れ
やかなお姿とお声で、会場内はスッキリ晴れ渡つ
ていました。定刻には、懐かしいお顔ぶれが揃い
すぐ開会となりました。

開会の辞に続き、支部長挨拶。平成二十五年に
逝去された方に対し黙禱を捧げました。支部長挨
拶では、参加者に対し謝辞が述べられ「前回に会
の運営を引き継ぎ、わからぬままに今日まで一生
懸命やりました。この会が皆様にとって楽しい思
い出として残るよう念じます」と述べられました。
事務方からは、大勢の方にお知らせを出しました
が戻りが少ないとなど報告され、その後会計報
告がありました。

同窓会本部より、支部総会開催の感謝、及び戸
板女子短期大学の近況報告がありました。その後
は会食をしながら皆様のお話が弾み、それぞれに
活躍していることなどご紹介がありました。

三十年間、レザークラフト教室を主宰の方が、
小物入れ・小銭入れにでもと言つて、作品が配ら
れ皆大喜び。また製菓業の方からは美味しいお菓
子をいただき、その他いろいろとご紹介があり大
変楽しい会でした。役員のお三方からは、手作り

出席者

竹下由紀子（山下）	英文15回
鳥飼 照子（松尾）	被服13回
島 寿々子（大塚）	被服14回
川添 敬子（大塚）	被服15回
宮原トシ子（鹿又）	生活3回
牛島 淳子（井戸川）	生活14回
大塩 和子（三島）	生活14回
中村 生子（渡辺）	生活14回
野中 幸枝（宮本）	生活24回
本部より鈴木靜子・山口順子出席	

生活科

14回

日時

5月27日（土）

会場

銀座コルザ

出席者
幹事

森澄子・中澤聰子

生活科

9回

日時

9月8日（金）

会場

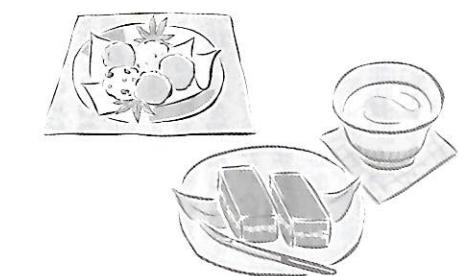
南国酒家 原宿店

出席者

13名

幹事 戸塚好子・多田陽子

クラス会だより



戸板栄養士会だより

会員の皆様、お元気でご活躍のことと拝察申しあげます。日頃よりご協力を賜り、誠にありがとうございます。平成二十九年度の主な活動をご報告いたします。

【懇親会】

・平成二十九年九月九日（土）銀座「中国薬膳料理星福（シンフー）」にて、身体によく、おいしい薬膳料理と薬膳酒をいただき、各種の漢方薬との利用法について学びました。参加者は十名でした。

【戸板祭への参加】

・平成二十九年十月二十七日（金）・二十八日（土）毎年大好評の健康茶サービス、アルコールパッヂテスト、体組成測定など実施し、また栄養士会会員が各現場で実践している食育情報の展示や報告などを行いました。

【幹事会】

今年度より、偶数月の第一月曜日を定例会議として実施いたしました。
第一回 平成二十九年四月三日（月）平成二十九年度年間行事計画、会員名簿の整理、会員への行事のお知らせなど、周知の仕方にについて

第二回 平成二十九年六月五日（月）総会・講演会、セミナー、懇親会について

第三回 平成二十九年九月九日（土）（八月七日（月）延期分）戸板祭、セミナー、広報誌について

第四回 平成二十九年十月一日（月）戸板祭役割分担、セミナー、広報誌について

第五回 平成二十九年十一月四日（月）総会・講演会、セミナー、広報誌について

第六回 平成三十年一月二十日（土）（臨時会議）総会・講演会打合せ、次年度年間行事案について

第七回 平成三十年二月五日（月）次年度年間行事計画、セミナーについて

平成三十年一月二十日（土）平成二十九年度戸板栄養士会総会を開催し、併せて講演会を行いました。

第一部 講演会
群馬大学名誉教授 高橋久仁子先生を講師にお迎え

【総会・講演会】

平成三十年一月二十日（土）平成二十九年度戸板栄養士会総会を開催し、併せて講演会を行いました。

し「食情報とフレーファデイズム～メディアに惑わされない食生活～」と題し、ご講演いただきました。巷に出回る健康食品の表示や広告文句の巧妙さやその見方、考え方など、栄養士としても役立つ貴重なお話を伺いました。

第二部 総会

平成二十九年度経過報告として、活動状況、維持費収支決算、戸板女子短期大学の現状などを報告し、平成三十年度行事案について審議しました。また、会員相互の情報交換を行い、有意義な内容となりました。

【管理栄養士国家試験対策講座】

第二十回管理栄養士国家試験対策講座は、七月から十二月の土・日、祝日に二科目ずつ五回シリーズで計十科目開講し、二月には直前質問講座を行いました。講師には、前学長 辻啓介先生をはじめ、本学にご縁の深い先生方、現食物栄養科教員の方々にご担当いただきました。

第三十一回管理栄養士国家試験合格者は十一名でした。合格された皆様には、心よりお祝い申しあげます。平成十七年度より個人情報保護法の施行により合格者の個人名は発表されておりません。めでたく合格された方々には、是非戸板栄養士会までご一報ください。また、今後受験を予定されている皆様には、母校での管理栄養士国家試験対策講座のご参加を心よりお待ちしております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【その他】

勤務先・住所・氏名の変更などは必ずご連絡をお願いいたします。また、新しく栄養士業務に就かれた方も会員として登録いたしますので、左記までお知らせください。

〒105-10014

東京都港区芝二丁目十一十七
戸板女子短期大学 戸板栄養士会

T E L ○三一三四五二一四一六一
E メール eiyoshi@toita.ac.jp
ホーリュページ <http://www.toita.ac.jp/eiyoshi/>

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

戸板栄養士会事務局 西山 良子

千草会 支部紹介

支部名	支部長	卒業回数	支部総会
群馬県支部 (連絡先)事務局	北爪 隆江(原田)	生活科 15回	毎年開催
	近藤二三枝(武)	生活科 19回	
栃木県支部	直井 和子(関根)	生活科 18回	2年毎開催
	飯島八壽子(成田)	英文科 22回	
静岡県支部			
宮崎県支部	江藤 博子(佐藤)	生活科 18回	3年毎開催
福島県支部		休会	
北海道支部	大平 清美(山下)	生活科 16回	3年毎開催
北部九州支部	中村 生子(渡辺)	生活科 14回	2年毎開催
	川添 敬子(大塚)	被服科 15回	

連絡をお取りになりたい方は、同窓会事務室までご一報ください。

戸板女子短期大学
同窓会事務室

電話/FAX
03-3452-4169 (直通)

インターンシップ

「株式会社 WAO!! STYLE」 インターンシップ体験

服飾芸術科一年 加藤 月希

私は「株式会社 WAO!! STYLE」で十日間のインターンシップ研修に参りました。この十日間で私は笑顔の素晴らしさと難しさを学びました。

一日目、私達は「スペシャルスマイルでお客様を幸せにする」という目標を立てました。この時、私は笑顔で接客する事はいつもアルバイトで経験していたので簡単だと思つていきました。二日目からお客様にサービスするための研修が始まりました。ワインの注ぎ方、お皿の持ち方、迎賓など今までやつた事がない事ばかりで、披露宴当日に笑顔でいられるお客様になりました。

当日、私は笑顔で行動しました。しかし後半になると疲れてきて、社員の方に「笑顔が減つてきてているよ」と声をかけられてしましました。常に笑顔でいる事はとても難しいことだと実感しました。社員やアルバイトの方々、最初から最後までにこやかに接客している姿が、私はキラキラ輝いていますように見えました。私もその様な素敵なお人になりたいと思います。次の日から心がけました。一日目、お客様に「笑顔が素敵だね」また社員の方からも「笑顔が一番だった」と言われ、とても嬉しかったです。

常にこやかにお客様と接するのは難しい事ですが、心がければ必ず嬉しい気持ちが自分に返ってくる事を知り、研

修を通じて笑顔の力の素晴らしさを実感しました。

「株式会社サンエー・ビーディー」 インターンシップ体験

服飾芸術科一年 田口 遥

私は、アパレル販売員として七日間インターンシップ体験をしました。販売員の仕事は接客だけではなくお店を綺麗に保つために、こまめに掃除をし、商品を綺麗な状態に保つためのストック整理、納品などやるべきことがたくさんありました。

その中でも、私が販売員を経験して一番大変だと思ったことは接客です。私はコミュニケーション能力が高い方ではなく、また商品の知識が少なく、初めはお客様に声を掛けられずにいました。社員の方や先輩方の接客を見て学び、私も声を掛けることができるようになりました。

来店されるお客様の中には海外の方々が多く、英語で会話をすることもありました。今まで、海外の方と接する機会がなく、会話をすることがなかったので、いましたが、アレルギー除去食は普通給食と見た目もほとんど変わらず盛りつけられたことが印象的でした。アレルギーをもつ子どもが多い食材は、給食には使わないなどの対応もあり、いかに安全に周りの子どもたちと変わらない給食を提供できるか、それが最も考えるべき点でした。しっかりととした言葉で伝えることができなくとも、正確に伝えたい気持ちがあれば伝わり、聞き取ろうとする気持ちがあれば会話をすることができます。患者様一人ひとりのことを考え、接

客をして「ありがとう」と言われたときはとても嬉しかったです。このインターンシップで学んだことは販売をするだけではなく、どんな仕事をするにあつても誠意をもつて接することが大切なことだと、身を以つて体験することができました。

一小学校実習を終えて

食物栄養科二年 吉川 紫野

私は学校栄養士として働きたい、と栄養士になるために勉強していく中で思いました。そのこともあり学外実習先は小学校を希望し、平成二十九年九月四日から八日の五日間、「港区立白金の丘小学校」で実習をしてきました。

午前中は切り物や炒め物などの調理業務と配膳準備を行いました。午後は栄養教諭の先生から献立作成や発注、アレルギー対応について教えていただき、校長先生、教頭先生、養護の先生からも講義をしていただきました。日によつては給食室での食器洗浄に携わり、また毎日各クラスへ配布している栄養価を記したプリントの作成や栄養教諭の先生と一緒に「給食だより」も作成しました。

実習を通して学校栄養士として働く上でアレルギー対応はとても大切なことであると学びました。白金の丘小学校では、色の違う食器やトレイで区別をしていましたが、アレルギー除去食は普通給食と見えた目もほとんど変わらず盛りつけられた。しつかりとした言葉で伝えることができなくとも、正確に伝えたい気持ちがあれば伝わり、聞き取ろうとする気持ちがあれば会話をすることができます。患者様一人ひとりのことを考え、接

ヨンをとるだけでなく、先生方、調理員さんとの良い人間関係をしっかりと構築し、安心安全な給食を提供できるような栄養士になりたいと思っています。

病院での学外実習を終えて

食物栄養科二年 濱田 綾乃

私は「東京慈恵会医科大学葛飾医療センター」で十日間の実習をさせていただきました。四月から働く就職先が病院ということもあり、病院での栄養士の仕事を具体的に知りたいと考え希望しました。

実習では病院でしか体験することのできないNST（栄養サポートチーム）回診をはじめとした種々の回診、栄養相談の見学などをさせていただきました。中でも褥瘡（床ずれ）回診が印象に残っています。実際に患者様の傷を診させていたしました。

その際、傷が治りかけていた良き症例とのことでした。私は傷が

治つていく過程を見ていたわけではありませんが、食事の大切さを改めて感じました。

それだけ食事というものは生活

の一部であり、入院中の楽しみの一つな

のだと感じました。現場では直接患者様と接する機会は少ないですが、喫食後に

した。残さず食べていただくためには、

よりおいしさが求められます。栄養相談

でも食事の感想を話す患者様が多い印象

でした。それだけ食事というものは生活

の一部であり、入院中の楽しみの一つな

のだと感じました。現場では直接患者様

と接する機会は少ないですが、喫食後に

記入していただいた感想を現場で見るこ

とができ、モチベーションにつながるとのことでした。

高校時代から夢であった食事を提供す

る立場の職に就けることを誇りに思い、実習で得た知識や経験を活かしていきました。患者様一人ひとりのことを考え、

寄り添える栄養士になれるよう頑張ります。

【文部科学省】 「インターングループにつけ

国際「ミュニケーション学科一年 坂口 穂香

私は九月十四日から二十五日までの二週間「文部科学省」でのインターングループに参加させていただきました。これまで私は、純粹に国家公務員とはどんな仕事をしているのだろうと思つていましたが、一般企業とはまた違った働き方に、仕事のやりがいの多様性を感じました。

私の配属先は、総務課広報室でしたが、文部科学省という大きな組織の中で分かれている「教育」「文化」「スポーツ」「科学技術」の各分野に、それぞれ広報活動をする部署があり、広報室は全体の窓口のような役割をしていました。そのため省者に向けた各分野の展示スペースの管理や記者会見の補助などで、直接的な広報活動はほとんどありません。しかし、職員の方々のお話を聞く中で、窓口だからこそすべての分野に携わることができること、また、文部科学省の取り組みやタイアップに対する人々のリアクションが直に伝わってくることから、他の庁や課では得ることのできない経験ができることがわかりました。また、文部科学省という国家機関で働く方々を間近で見るので、私は「暮らしに寄り添い発展させていく」というテーマを感じました。利益を求めるのではなく、日本の豊かさや喜びをやりがいとする仕事の場を体験させていただいたのは、とても貴重なことだと思います。この経験を、今後の就職活動で大いに活かしていきたいと思います。

【港区役所】 「インターングループにつけ

国際「ミュニケーション学科一年 服部 紗子

私はこの夏、とても貴重な経験をしました。それはインターングループです。八月二十一日から九月一日までの十日間、港区の「みなと保健所保健予防課保健係」で、業務を学ばせていただきました。

実習内容は、エクセルによる集計、レッドリボンや検査キットを作ること、資料のダブルチェック、国への感染症の報告などです。これらの業務を通して、私の実際の業務を通じ、私の人として仕事にどういった姿勢で向き合うべきなのかを学びました。実際に仕事を体験してみると、保健所が特殊ということもあるとは思いますが、パソコン業務ばかりではなく、郵便物や啓発物の物品などを手作業で作成する必要があると分かりました。また、エクセルを良く使うということを知りました。エクセルは高校で習いましたが、仕事で使うには特に関数をより効率良く使える必要があります。現在、授業でエクセルの勉強に意欲的に取り組んでいます。

十日間という短い期間でしたが、働いていらっしゃる職員の方々を見て、仕事を効率的に進めるには、責任感と柔軟性のバランスが大切なだと感じました。今回のインターングループで得た経験を、これからの大學生での学びや就職活動、そして将来に活かしていきたいと考えています。

平成29年度 食物栄養科 オフキャンパス

◎ 食育セミナー

(増野ゼミ)
6月10日..「ふれ愛まつりだ、芝地区！」

7月2日..「アレルギー大学ベーシックプログラム(アレルギーネットワーク勉強会)於千葉大学医学部」参加

※日本ハム食の未来財団
「第3回食物アレルギー対応食料理コンテスト」参加

月28日..「東京ガス主催『環境に配慮した食の自立』と『五感の育成』を目指した食育を学び、フランクの味覚教育の体験。最新調理器具「ラ・クチーナ・エスプレッサ」でエコクッキング

9月12日..「東京都教育フェア参加
調理器具『ラ・クチーナ・エスプレッサ』でエコクッキング

9月18日..「虎ノ門いきいきプラザ」
「アフタヌーンティーパーティー」
「スイーツレシピ」考案、販売

11月12日..「東京都立弁天保育園にて食育講話」当日手伝い

12月2日..「浦安市立弁天保育園にて食育講話」当日手伝い

(西山ゼミ)
6月10日..「ふれ愛まつりだ、芝地区！」
出店、食育活動の展示

7月15日..「三田いきいきプラザ『みたまつり』」参加、イベント協力、販売等

9月9日..「神明いきいきプラザ『神明フェスティバル』」参加、食育体験ブース出展

9月18日..「虎ノ門いきいきプラザ『アフタヌーンティーパーティースイーツレシピ』考案、販売提供、食育体験

11月20日..「三田いきいきプラザ『カフェメニュー』として『スイーツレシピ』考案、販売

12月22日..「神明いきいきプラザ『スマスマスイーツレシピ』考案、販売

(井部ゼミ)
5月18日..「芝地区養蜂事業検討プロジェクトチーム」[芝Bees] 参加

6月10日..「ふれ愛まつりだ、芝地区！」
参加

6月19日..「ご近所ラボ新橋 食育ワークショップ実施

9月13日..「芝の家 食育ワークショップ実施

※6月30日..「ふれ愛まつりだ、芝地区！」
の売上金(井部ゼミ、西山ゼミ)を港区役所に届け、熊本地震義援金とした

●その他
5月14日..「港区わんぱく相撲大会」「ちやんこ鍋レシピ」考案、当日手伝い

5月22日..「神奈川県立横浜南稟高校 出前授業」リジナルスパイスカレー講座

8月5日..「TOITAN」「S&B食品株式会社」本学オーブンキヤンバスのオリジナルスパイスランチメニュー提案企画、インスタ映えの牛丼レシピ開発

8月19~20日..「DAIRAN烹視察および試食会」

(株)Meat-Companion様の運営する店舗

(高橋ゼミ)
7月31日..「第6回ベーカリ素材展」パン素材の研修

9月28日..「東京ガス主催『環境に配慮した食の自立』と『五感の育成』を目指した食育を学び、フランクの味覚教育の体験。最新調理器具「ラ・クチーナ・エスプレッサ」でエコクッキング

10月1日..「東京都立弁天保育園にて食育講話」当日手伝い

11月12日..「東京都立弁天保育園にて食育講話」当日手伝い

12月2日..「浦安市立弁天保育園にて食育講話」当日手伝い

(北村ゼミ)
9月18日..「虎ノ門いきいきプラザ」
「アフタヌーンティーパーティー」
「スイーツレシピ」考案、栄養講話

11月12日..「東京都立弁天保育園にて食育講話」当日手伝い

12月2日..「浦安市立弁天保育園にて食育講話」当日手伝い

(西山ゼミ)
6月10日..「ふれ愛まつりだ、芝地区！」
出店、食育活動の展示

7月15日..「三田いきいきプラザ『みたまつり』」参加、イベント協力、販売等

9月9日..「神明いきいきプラザ『神明フェスティバル』」参加、食育体験ブース出展

9月18日..「虎ノ門いきいきプラザ『アフタヌーンティーパーティースイーツレシピ』考案、販売提供、食育体験

11月20日..「三田いきいきプラザ『カフェメニュー』として『スイーツレシピ』考案、販売

12月22日..「神明いきいきプラザ『スマスマスイーツレシピ』考案、販売

(井部ゼミ)
5月18日..「芝地区養蜂事業検討プロジェクトチーム」[芝Bees] 参加

6月10日..「ふれ愛まつりだ、芝地区！」
参加

6月19日..「ご近所ラボ新橋 食育ワークショップ実施

9月13日..「芝の家 食育ワークショップ実施

※6月30日..「ふれ愛まつりだ、芝地区！」
の売上金(井部ゼミ、西山ゼミ)を港区役所に届け、熊本地震義援金とした

●その他
5月14日..「港区わんぱく相撲大会」「ちやんこ鍋レシピ」考案、当日手伝い

5月22日..「神奈川県立横浜南稟高校 出前授業」リジナルスパイスカレー講座

8月5日..「TOITAN」「S&B食品株式会社」本学オーブンキヤンバスのオリジナルスパイスランチメニュー提案企画、インスタ映えの牛丼レシピ開発

8月19~20日..「DAIRAN烹視察および試食会」



同窓会千草会 奨学生

平成二十九年度の同窓会千草会奨学生は、選考委員会において左記の五名の方々を選考し、六月一日（木）に学長 小林千春先生・三学科長・短大事務局長にご出席いただき、奨学生金授与式が行なわれました。この奨学生は、二年生を対象に学業の継続に奨学生金を必要とする学生の中から、勉学の意欲に燃え、かつ人物良好な方に支給するものであります。同窓会千草会は母校の発展と人材育成のために、この支援を続けています。

服飾芸術科 ヤング・薰ローズ・小室 美咲・鈴木 那奈
食物栄養科 國松 美希
国際コミュニケーション学科 猪狩 美里

戸板祭

戸板祭実行委員長
食物栄養科二年

草山 友美

第十六回戸板祭は、十月二十七日（金・二二八日（土）に開催されました。初日は晴天に恵まれ、二日目はあいにくの曇り空でしたが、大勢の方々にご来場いただきました。

戸板ならではの様々なカラーで彩られた戸板祭が、心に残るものとなるよう 「彩り」という想いを込め、今年度のテーマは「彩りいろどり！」といたしました。また、今年は新たな試みとして、ポスター・パンフレット製作プロジェクトチームを立ちあげ、花や虹の色からテーマ題字まで学生がデザインし、パンフレットには学生出席カードを綴り込むといった工夫を凝らしました。

本部企画では、スタンプラリーを行い、

では、服飾芸術科二年生有志によるファッショショーンショーが行われ、学生モデル達による色鮮やかなステージになりました。食物栄養科では、今年も七階芝ファームで栽培した野菜やハーブを使用したクッキー・ハーブチキン・トマトジャムなどを販売し、大盛況のうちに完売しました。国際コミュニケーション学科では「海外短期留学プレゼンテーション」AN A連携プロジェクト「Tokyo Plus One プレゼンテーション」が行われ、各グループ

での発表が堂々と行われました。その他にも、クラブ・同好会やクラスの団体による模擬店・展示・パフォーマンスが行われ大盛況でした。

今年も参加していただいた同窓会千草会では、喧騒を忘れて一服のお抹茶とお菓子でくつろぎの時間を味わっていました。戸板栄養士会では、「ティーサロン」「体脂肪などの測定コーナー」さらには「栄養士の活動報告展示コーナー」が設けられていました。戸板父母の会では「短時間で簡単に作れる可愛い革のブレスの手作り体験」が催されました。さらに、今年も地域連携として芝商店街の方にご参加いただき、「たい焼き」を販売しました。

この奨学生は、二年生を対象に学業の継続に奨学生金を必要とする学生の中から、勉学の意欲に燃え、かつ人物良好な方に支給するものであります。同窓会千草会は母校の発展と人材育成のために、この支援を続けています。

スペシャルゲストとして、テレビで大人気のお笑い芸人、横澤夏子さん・田畠藤本さん・西村ヒロチヨさんの豪華三組をお招きし、「お笑いライブ」を行な大いに盛りあがりました。

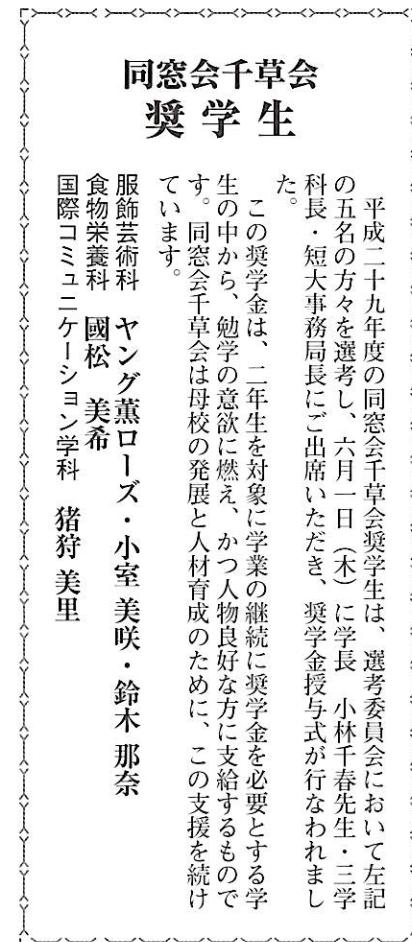
戸板祭企画は、皆様に楽しんでいただきたく、戸板祭実行委員をはじめ、学生会役員全員で考えました。

このように、無事に戸板祭を開催できましたのも、学内の教職員の皆様、卒業生の皆様のご協力があってことと、心より御礼申しあげます。

最後になりましたが、同窓会千草会及び戸板父母の会からご協力を賜りましたこと、厚く御礼申しあげます。



学内四か所でスランプを集めた
方に先着で、テ
ーマに因んだカ
ップケーキを
プレゼントしま
した。他には、
大階段のレッド
カーペットや入
口のバルーンタ
ワーなど、趣向を凝らした装飾で学内を



諸井くみ子先生（元被服科教授）

ご退職をされてから、お目にかかる機会が減りました。諸井先生の近況を気にしておりましたところ、平成二十九年五月二十七日に永眠されたという訃報が届きました。

先生は高等師範科（三十二回）を卒業され、その後故郷の長野県諏訪で教鞭をとられました。そして母校である戸板女子短期大学へ戻られ、長期に亘り教員生活を送られました。その間、被服科（現服飾芸術科）の学科長を務められ、戸板繁栄のために尽くされた教員生活であつたと思われます。先生は学生たちから信頼され、いつも親身になって接してくださることからとても慕われておりました。

悼む

私は卒業時にご縁をいただき、副手（現助手補）として先生の研究室でお世話になりました。現在まで続けてこられたのは、先生の温かいご指導の賜物と感謝しております。

また、同窓会千草会では、卒業生である責任感の強さから常任幹事としてご尽力されており、同窓生や卒業生とも密な友好を温めておりました。そして、いつもお洒落心を忘れず、銀座が大好きでお着物も大好き、また美味しいものがお好きで、女性としても豊かな素敵なお人生を送られたと思ひます。

どうぞ安らかにお休みください。

心よりご冥福をお祈りいたします。

小泉きよみ（被服科二十七回）

山本すま子先生（英文科）
町田日出子先生（英文科）
小野トシ先生（戸板中学校・戸板女子高等学校
同窓会千草会前会長）

ちぐさ編集委員一同

永眠者

● 平成30年1月末までにご連絡を受けた方	
酒井徳得	（清水）
林永子	（堤八重子）
森寺美代	（葛山）
小宮美知子	（小宮）
桑田嶺子	（桑田）
佐藤郁子	（山尾）
森山愛子	（門倉）
中牟田啓子	（生稻）
荒岩俊子	（脇坂）
菊地柴乃	（風間鏡子）
降旗理美	
天野由里	（山田）
山越幸子	
笹生博子	
石垣裕子	（野村）
大塚みづほ	
中嶋利江	（柴田）
野中正子	（五十嵐）
大住久美子	（大住）
長井直美	（松村）
土田訓子	
小勝美里	

心よりご冥福をお祈り申しあげます。

編集後記

● 今年の東京は三十二年ぶりに冬日が二十日以上となりました。福井では三十七年ぶりの積雪となり、青森・秋田などでも記録的な豪雪となりました。厳寒のなかでも梅の開花に心が和みます。

● 正会員になられた皆様、ご卒業おめでとうござります。皆様をお迎えし、大変心強く嬉しく思いました。皆様のご活躍とご健康を祈念いたします。

● 学長小林千春先生は、戸板のブランド化について書いてくださいました。校訓である「美学」と「好・楽」は、時代は変わつても教育の中に受け継がれています。

● ご無沙汰していた久保桂子先生や小築康弘先生の近況を拝読しました。現在の職場でのご活躍に嬉しい思いながら、先生方と一緒に学生指導に励んでいたころが懐かしく思い出されました。

● 「人物紹介」では、多方面でご活躍されている同窓生に毎年頭が下がる思いで拝読しております。ご自身を磨いてステップアップを計り、現在輝いている姿を誇りに思います。

● 前会長の鈴木静子先生には、長年『ちぐさ』編集に携わってご指導いただきました。改めてバックナンバーを繰り、その変遷、歴史の重みを感じました。諸先輩のご尽力、同窓生の皆様のご協力ご支援をいただいて、現在の会報誌に至つていることを痛感いたしました。

● 平昌で冬季オリンピック・パラリンピックが開催されました。国を超えたアスリートたちの白熱の競技に一喜一憂し、感動と勇気をもらいました。平和であつてこそ祭典と強く感じます。

● 今号から初めて編集作業に加わりました。不安な時もありましたが、地道に校を重ね形になりましたが、無事終了することができホッとしました。

ちぐさ編集委員一同

卒業生や企業との『つながり』が戸板の新たな学びに!!

同窓会干草会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申しあげます。
教職員一同、「魅力ある戸板女子短期大学」づくりに取り組んでいます。

[2017年の活動報告]

食物栄養科

「すき家」と共同開発 SNSにポストしたくなる
ような「フォトジェニックな牛丼」がついに完成

牛丼チェーン「すき家」と共同開発した「フォトジェニックな牛丼」が完成。決定したのは、ミックスナッツと色とりどりの野菜を使った、見た目鮮やかなナツサラダ牛丼「夏だ!!トコナツ牛丼」です。

8/19(土) オープンキャンパスで300食提供、8/20(日) 神宮外苑花火大会で200食販売しました。すき家が培ってきた商品開発に関するノウハウに、学生の新たな目線を取り入れることで、牛丼の新たな魅力を発見しました。



服飾芸術科

東京ガールズコレクションの
スタッフ運営に参加

9/2(土) さいたまスーパーアリーナにて開催された「マイナビ presents 第25回 東京ガールズコレクション 2017 AUTUMN/WINTER」に、服飾芸術科1年生20名が、モデルのフィッターや取材対応サポートとして、スタッフ運営に参加しました。大きなイベント作りの裏側を見たり、あこがれのスタイリスト、プレスの仕事を間近で見ることができ、学生にとって刺激的な体験となりました。



食物栄養科

スイーツパラダイスとのコラボカフェを実施
オリジナルメニュー開発などTOITAジャック

3/20(日)~28(火) スイーツやパスタ食べ放題で中高生に人気の「スイーツパラダイス」とスイーツパラダイスSoLaDo原宿店、スイーツパラダイス新宿ミロード店にてコラボカフェを実施。2店舗では、従来のスイーツパラダイス食べ放題のメニューにプラスして、食物栄養科の学生が考案したオリジナルコラボメニューの提供、さらにスイーツパラダイスSoLaDo原宿店では、戸板女子短期大学の世界観を楽しんでいただく装飾で店舗ジャックをしました。



国際コミュニケーション学科

エアライン業界を志望する1年生が、
ANA本社と羽田空港を見学

9/12(火) 国際コミュニケーション学科のエアライン業界を志望する1年生約20名が、「Business Conversation : Airline Airport」の学外授業として、羽田空港を見学しました。株式会社ANA総合研究所との産学連携授業の一環で行われる見学会を通して、空港の仕事の奥深さや、安全運航に向けて全員が様々な知識を使ってチーム力を大切にし一丸となっているプロの姿を見ることができました。



港区との新3Rキャラクター“だんじろう(断辞郎)”が誕生

港区が推進する3R(リデュース・リユース・リサイクル)のごみ削減に向け、新たな『リデュース』キャラクターとして「だんじろう(断辞郎)」を学内のゼミナールで共同開発しました。大量生産、大量消費の世の中に、もったいない心を大切にし「不要なものは断る」勇気を持ったサムライとして「だんじろう(断辞郎)」は生まれました。ごみを削減するための普及啓発活動で活躍していきます。



ご卒業の皆様、在学生応援のために企業連携やOG訪問にご協力ください

企業連携やOG訪問にご協力頂ける方はお気軽に下記までご連絡ください。

●お問合せ・お申し込み

短大事務局

TEL03-3452-4161(代表)

入試・広報部

TEL03-3451-8383(直通) 金井・澁谷
E-mail ao@toita.ac.jp

『ちぐさ』第62号

編 集 ちぐさ編集委員会

発 行 日 平成30年3月10日

発 行 者 東京都港区芝2-21-17

戸板女子短期大学同窓会

千草会

TEL 03-3452-4169 (直)

FAX

ホームページ

<http://www.toita.ac.jp/>

制 作 エックスデザイン株式会社

